

課題

児童生徒質問紙6「自分にはよいところがあると思う」より 自己肯定感が低い子が多い

手立て

自分の考えを表す場面を設定し、表現したことを認め、評価する

具体例

POINT① 主体的に取り組める課題を設定し、表現の場を設ける

○生活に関わる課題、必要感のある課題など、自分ごととして捉えることのできる課題を設定する

- ・児童生徒がもっている疑問から課題を作りあげる。
- ・身近な生活や社会に関連する課題を設定する。

○課題の解決に向けて、自分の考えを表現する場面を意図的に設ける

- ・自分の考えを整理する時間を確保する。
- ・自分の考えを全体、グループに伝える場を設定する。

- ・疑問に思っていること
「なぜ…」、「どうして…」
- ・解決したいこと
「どうしたら…」
- ・興味・関心をもったこと
「さらに詳しく…」
- ・可能性
「～できるだろうか？」

POINT② 認め合いのできる場面設定と学習形態を工夫する

○対話的な学習活動をねらった場面を設定する

- ・協働して解決できる場面の設定。
- ・多面的な見方や複数の考え方を引き出せる場面の設定。

○課題や場面に応じた学習形態を工夫する

- ・「班学習」
いろいろな考え方があることに気づき、相違点、共通点を整理して思考を深める。
- ・「ペア学習」
相手との意見の違いを比較しながら、自分の考えを深め、よりよいものにしようとする。

- 話し合いの場でのルール
- ・相手の話を目を見ながら反応してしっかりと聞く。
 - ・自分の考えを、根拠を明確にして伝える。
 - ・仲間の意見、考えを肯定的に受け入れる。
 - ・仲間のよいところを具体的に称賛する。

POINT③ 自分の取組を振り返る場面と、認め、評価する場面を設ける

○「自分がやった」という実感をもたせる

- ・自分が分かったこと、できるようになったことを振り返りシート、自己評価カード等に記録を残し、成果を確かめられるようにする。

○表現したことを認め、評価する

- ・児童生徒の振り返りに対し、児童生徒の変化に気づき、適切に評価し、具体的な場面を取り上げて褒めることができるようにする。

褒めるときポイント

- ・具体的な場면을認め褒める。
- ・タイミングよく褒める。
- ・思いを汲み取って褒める。